

5課

啓示と靈感

10月31日

安息日午後

10月24日

暗証聖句

イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずのことを、神がその僕たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕ヨハネにお伝えになったものである。ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証した。(黙示録 1:1、2、新共同訳)

イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。ヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。(黙示録 1:1、2、口語訳)

今週の聖句

ヘブライ(ハブル)1:1、2、Ⅱテモテ 3:15~17、Ⅱペトロ(ペテロ)1:18~21、
出エジプト記 17:14、黙示録 1:19、エゼキエル 4:1~8

今週のテーマ

使徒ヨハネは、十二弟子の中でも側近の1人でした(ルカ 8:51、マタ 17:1、26:36、37)。キリストの昇天後も、彼はエルサレムで働きを続けましたが、エルサレム陥落(西暦 70 年)の前に、小アジアのローマ帝国の属州内にある諸教会を監督するため、エフェソ(エペソ)に移りました。そして、ローマ皇帝ドミティアヌスの下でクリスチャンへの迫害が起こったとき、使徒ヨハネはエーゲ海のパトモス島に流刑にされたのです。

パトモス島でヨハネは、小アジアの七つの教会だけでなく、あらゆる時代のクリスチャンに向けられた特別な預言のメッセージを受け取りました(黙 1:1~3、9~11)。ヨハネが一端を担ったこの預言的メッセージの伝達経路は、次のようなものでした——父なる神から、イエス・キリスト、天の使い、使徒ヨハネ、そして読者や聞き手へ。これは、神が預言者を用いて人類にご自分のメッセージをお伝えになる啓示と靈感の過程の典型的な例です。

今週の研究では、多様な啓示と靈感の過程について特に考察し、神のメッセージが口頭、文書、そして劇的な表現といった方法を通して人間に伝えられてきたことに焦点を当てます。

ルカ 8:51 (新共同訳)

8:51 イエスはその家に着くと、ペトロ、ヨハネ、ヤコブ、それに娘の父母のほかには、だれも一緒に入ることをお許しにならなかった。

マタ 17:1 (新共同訳)

17:1 六日の後、イエスは、ペトロ、それにヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

マタ 26:36、37 (新共同訳)

26:36 それから、イエスは弟子たちと一緒にゲツセマネという所に来て、「わたしが向こうへ行つて祈っている間、ここに座っていなさい」と言われた。

26:37 ペトロおよびゼバダイの子二人を伴われたが、そのとき、悲しみもだえ始められた。

黙 1:1～3 (新共同訳)

1:1 イエス・キリストの黙示。この黙示は、すぐにも起こるはずのことを、神がその僕たちに示すためキリストにお与えになり、そして、キリストがその天使を送って僕ヨハネにお伝えになったものである。

1:2 ヨハネは、神の言葉とイエス・キリストの証し、すなわち、自分の見たすべてのことを証した。

1:3 この預言の言葉を朗読する人と、これを聞いて、中に記されたことを守る人たちは幸いである。時が迫っているからである。

黙 1:9～11 (新共同訳)

1:9 わたしは、あなたがたの兄弟であり、共にイエスと結ばれて、その苦難、支配、忍耐にあずかっているヨハネである。わたしは、神の言葉とイエスの証しのゆえに、パトモスと呼ばれる島にいた。

1:10 ある主の日のこと、わたしは“霊”に満たされていたが、後ろの方でラツパのように響く大声を聞いた。

1:11 その声はこう言った。「あなたが見ていることを巻物に書いて、エフェソ、スミルナ、ベルガモン、ティアティラ、サルデス、フィラデルフィア、ラオディキアの七つの教会に送れ。」

ルカ 8:51 (口語訳)

8:51 それから家にはいられるとき、ペトロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいつて来ることをお許しにならなかった。

マタ 17:1 (口語訳)

17:1 六日ののち、イエスはペトロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。

マタ 26:36、37 (口語訳)

26:36 それから、イエスは彼らと一緒に、ゲツセマネという所へ行かれた。そして弟子たちに言われた、「わたしが向こうへ行つて祈っている間、ここにすわっていなさい」。

26:37 そしてペトロとゼバダイの子ふたりとを連れて行かれたが、悲しみを催しまた悩みはじめられた。

黙 1:1～3 (口語訳)

1:1 イエス・キリストの黙示。この黙示は、神が、すぐにも起るべきことをその僕たちに示すためキリストに与え、そして、キリストが、御使をつかわして、僕ヨハネに伝えられたものである。

1:2 ヨハネは、神の言とイエス・キリストのあかしと、すなわち、自分が見たすべてのことをあかしした。

1:3 この預言の言葉を朗読する者と、これを聞いて、その中に書かれていることを守る者たちとは、さいわいである。時が近づいているからである。

黙 1:9～11 (口語訳)

1:9 あなたがたの兄弟であり、共にイエスの苦難と御国と忍耐にあずかっている、わたしヨハネは、神の言とイエスのあかしとのゆえに、パトモスという島にいた。

1:10 ところが、わたしは、主の日に御霊に感じた。そして、わたしのうしろの方で、ラツパのような大きな声がするのを聞いた。

1:11 その声はこう言った、「あなたが見ていることを書きものにして、それをエペソ、スミルナ、ベルガモ、デアテラ、サルデス、ヒラデルヒヤ、ラオデキヤにある七つの教会に送りなさい」。

問1 ヘブライ (ハブル) 1:1, 2 を読んでください。神はなぜ私たちに語りかけることに関心がおありなのでしょう。イエスや預言者を通して、神は私たちにどんなことを語っておられますか。

宇宙の創造主は、私たちに何を語ろうとしておられるのでしょうか。なぜ神は私たちに語りかけられるのでしょうか。それは、私たちが罪深い世界に生きる墮落した人間であり、死、苦しみ、試練に直面しているからです。それゆえに神は、なぜ私たちがここにいるのか、なぜ物事がこれほど悪いのか、そしてそれにもかかわらず、なぜ神の愛に希望を抱くことができるのかを私たちに知らせたいと思い、語りかけられるのです。

自然界に見られる神の一般啓示は、神の無限の力と慈しみ深い愛を雄弁に語っています。ダビデ王はこう叫びました——「天は神の栄光を物語り/大空は御手の業を示す」〔口語訳「もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす」〕(詩編 19:2〔口語訳 詩篇 19:1〕)。使徒パウロは、さらにこう付け加えています。「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません」〔口語訳「神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない」〕(ロマ 1:20)。

また、この世における神秘的な癒やしの過程にあらわされている神の回復の力について考えてみても、驚かされます。実に、「神の癒やしの力は、自然界のあらゆるもののなかに働いています。木が切られると、あるいは、人がけがをしたり、骨折したりすれば、すぐに自然の治癒力が傷を治し始めます。傷を治す必要が生じる前でさえ、癒やしの働きはすでに存在し、出番を待っています。そして、傷を負うやいなや、あらゆる力が回復の働きのために総動員されるのです」(『真の教育』127 ページ)。

自然界は美しく、多くのことを教えてくれますが、神の力と愛だけでなく、悪の存在も明らかにしています(創 3:14~19、マタ 13:24~30 参照)。この二面的なメッセージは、神の特別啓示、すなわち受肉された神の言であるイエス・キリストと、神について証しする、書かれた神の言葉である聖書(ヨハ 5:39)の光に照らしてのみ、正しく理解することができます。

聖書は、あらゆる時代の全人類に向けられた神のメッセージを靈感によって記録したものです。聖書は、世界の創造とその悲劇的な墮落、そして神の驚くべきあがないの計画と地球の最終的な回復について語っています。聖書の物語の中には、情報が少なく、取捨選択されたものもあるかもしれませんが、常に信頼できるものです。なぜなら、神が私たちに語りかけておられるからです(Ⅱテモ 3:16、Ⅱペト〔ペテ〕1:19~21 参照)。

【参考】英語テキストにある文

Though nature surely points to the reality of the Creator's power and love, why do we still so desperately need the Written Word, as well? What does the Word tell us that nature, in and of itself, doesn't?

自然は確かに、創造主の力と愛が真実(本物)であることを示しています。しかしそれにもかかわらず、私たちはなぜこれほどまでに「書き記された御言葉(聖書)」を切実に必要とするのでしょうか。御言葉は、自然だけでは伝えることのできない、どのようなことを、私たちに教えてくれているのでしょうか。

33

ヘブ 1:1~2 (新共同訳)

1:1 神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、

1:2 この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました。神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました。

詩 19:2 (新共同訳)

19:2 天は神の栄光を物語り/大空は御手の業を示す。

ロマ 1:20 (新共同訳)

1:20 世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます。従って、彼らには弁解の余地がありません。

創 3:14~19 (新共同訳)

3:14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は/あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で/呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。

3:15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に/わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き/お前は彼のかかとを砕く。」

3:16 神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め/彼はお前を支配する。」

3:17 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い/取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。

ヘブ 1:1~2 (口語訳)

1:1 神は、むかしは、預言者たちにより、いろいろな時に、いろいろな方法で、先祖たちに語られたが、

1:2 この終りの時には、御子によって、わたしたちに語られたのである。神は御子を万物の相続者と定め、また、御子によって、もろもろの世界を造られた。

詩 19:1 (口語訳)

19:1 もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。

ロマ 1:20 (口語訳)

1:20 神の見えない性質、すなわち、神の永遠の力と神性とは、天地創造このかた、被造物において知られていて、明らかに認められるからである。したがって、彼らには弁解の余地がない。

創 3:14~19 (口語訳)

3:14 主なる神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう。

3:15 わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」

3:16 つぎに女に言われた、「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう。」

3:17 更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。

3:18 お前に対して/土は茨とあざみを生えいでさせる/野の草を食べようとするお前に。

3:19 お前は顔に汗を流してパンを得る/土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」

マタ 13:24~30 (新共同訳)

13:24 イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。

13:25 人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。

13:26 芽が出て、実てみると、毒麦も現れた。

13:27 僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』

13:28 主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、

13:29 主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。

13:30 刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』

ヨハ 5:39 (新共同訳)

5:39 あなたたちは聖書の中に永遠の命があると考えて、聖書を研究している。ところが、聖書はわたしについて証しをするものだ。

Ⅱテモ 3:16 (新共同訳)

3:16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。

Ⅱペト 1:19~21 (新共同訳)

1:19 こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意してください。

1:20 何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。

3:18 地はあなたのために、いばらとあざみとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう。

3:19 あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

マタ 13:24~30 (口語訳)

13:24 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。

13:25 人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。

13:26 芽がはえて実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。

13:27 僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか。』

13:28 主人は言った、『それは敵のしわざだ』。すると僕たちが言った『では行って、それを抜き集めましょうか。』

13:29 彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。

13:30 収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう』。

ヨハ 5:39 (口語訳)

5:39 あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。

Ⅱテモ 3:16 (口語訳)

3:16 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。

Ⅱペテ 1:19~21 (口語訳)

1:19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確かなものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめていくがよい。

1:20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

1:21 なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。

月曜日 10月26日 霊感の過程

聖書だけでなく、多くの書物や著作物が、時代を超えて私たちに伝えられてきました。それにもかかわらず、私たちは聖書を神の言葉と見なしています。いったい何が聖書をほかの著作物と区別しているのでしょうか。

問2 IIテモテ3:15～17とヤコブ1:17を読んでください。これらの聖句から、私たちはどんな重要なメッセージを受け取るべきでしょうか。

IIテモテ3:16の最適な訳し方については議論がありますが、ほとんどの聖書訳は、この箇所をほぼ同じように訳しており、聖書全体が神に由来するものであることを強調しています(IIペト[ペテ]1:20, 21)。

ある聖書注釈者は、こう説明しています——「パウロはここで聖書全体を思い描いている可能性が高く、個々の聖句が次のような点で有益であるというよりも、聖書全体が『人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です』と述べているように思われる」(G・W・ナイト『牧会書簡——ギリシア語本文注解』445 ページ、英文)。

【参考】——G. W. Knight III, *The Pastoral Epistles: A Commentary on the Greek Text*, p. 445. “it seems more likely that Paul is contemplating scripture as a whole here and that he would say that the whole of scripture is ‘profitable for teaching, reproof, correction, and instruction in righteousness,’ than that every scripture passage is profitable in these ways.”

しかし、聖書を生み出した霊感の過程をどう理解すべきでしょうか。預言的霊感とは、神のメッセージが確実に伝わるように、聖霊が真の預言者を助ける働きであると認識すべきです。この助けは、メッセージを受け取る過程だけでなく、メッセージを受け手に明確に伝える過程でも与えられます。

神のメッセージは、幻や夢を通して与えられました(民12:6、イザ6:1, 8)。神はまた、目撃者(Ⅰヨハ1:1～3)、霊感による歴史的調査(ルカ1:1～3)、心に与えられる神の印象(IIペト1:21)も用いられました。聖霊がどんな手段を用いられたにせよ、預言者や聖書記者には、主観的なメッセージではなく、伝えるべき客観的な真理のメッセージが与えられたのです。つまり、神の使者たちは、神のメッセージを表現するために自分自身の言葉を用いたとしても、それを改変したり、いかなる形でも歪めたりしてはなりませんでした。

預言的メッセージを当時の聴衆に伝える務めは、口頭によって(IIペト[ペテ]1:19～21)、文書によって(ヨハ20:30, 31)、さらには劇的な行為[dramatization](エゼ4:1～8)によってなされることもありました。

聖書がどのように靈感を受けたか、あるいは靈感そのものがどのように働くかについて多くの疑問が残っているにしても、なぜ私たちが聖書を神の靈感による言葉として信頼することが重要なのですか（たとえ聖書がどのように書かれたかを完全に理解できなくても）。

34

Ⅱテモ 3:15～17 （新共同訳）

3:15 また、自分が幼い日から聖書に親しんできたことをも知っているからです。この書物は、キリスト・イエスへの信仰を通して救いに導く知恵を、あなたに与えることができます。

3:16 聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。

3:17 こうして、神に仕える人は、どのような善い業をも行うことができるように、十分に整えられるのです。

ヤコ 1:17 （新共同訳）

1:17 良い贈り物、完全な賜物はみな、上から、光の源である御父から来るのです。御父には、移り変わりも、天体の動きにつれて生ずる陰也没有。

Ⅱペテ 1:19～21 （新共同訳）

1:19 こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意してください。

1:20 何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。

1:21 なぜなら、預言は、決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

民 12:6 （新共同訳）

12:6 主はこう言われた。「聞け、わたしの言葉を。あなたがたの間に預言者がいれば、主なるわたしは幻によって自らを示し、夢によって彼に語る。

イザ 6:1、8 （新共同訳）

6:1 ウジヤ王が死んだ年のことである。わたしは、高く天にある御座に主が座し

Ⅱテモ 3:15～17 （口語訳）

3:15 また幼い時から、聖書に親しみ、それが、キリスト・イエスに対する信仰によって救に至る知恵を、あなたに与える書物であることを知っている。

3:16 聖書は、すべて神の靈感を受けて書かれたものであって、人を教え、戒め、正しくし、義に導くのに有益である。

3:17 それによって、神の人が、あらゆる良いわざに対して十分な準備ができて、完全にととのえられた者になるのである。

ヤコ 1:17 （口語訳）

1:17 あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。

Ⅱペテ 1:19～21 （口語訳）

1:19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめていくがよい。

1:20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。

民 12:6 （口語訳）

12:6 彼らに言われた、「あなたがたは、いま、わたしの言葉を聞きなさい。あなたがたのうちに、もし、預言者があるならば、主なるわたしは幻をもって、これにわたしを知らせ、また夢をもって、これと語るのであろう。

イザ 6:1、8 （口語訳）

6:1 ウジヤ王の死んだ年、わたしは主が高くあげられたみくらに座し、その衣の

ておられるのを見た。衣の裾は神殿いっぱいに広がっていた。

6:8 そのとき、わたしは主の御声を聞いた。「誰を遣わすべきか。誰が我々に代わって行くだろうか。」わたしは言った。「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。」

Iヨハ 1:1~3 (新共同訳)

1:1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て、手で触れたものを伝えます。すなわち、命の言について。――

1:2 この命は現れました。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこの永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証しし、伝えるのです。――

1:3 わたしたちが見、また聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたもわたしたちとの交わりを持つようになるためです。わたしたちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。

ルカ 1:1~3 (新共同訳)

1:1-2 わたしたちの間で実現した事柄について、最初から目撃して御言葉のために働いた人々がわたしたちに伝えたとおりに、物語を書き連ねようと、多くの人々が既に手を着けています。

1:3 そこで、敬愛するテオフィロさま、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、順序正しく書いてあなたに献呈するのがよいと思いました。

ヨハ 20:30、31 (新共同訳)

20:30 このほかに、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

エゼ 4:1~8 (新共同訳)

4:1 人の子よ、れんがを一つ取って目の前に置き、その上に都であるエルサレムを刻みなさい。

すそが神殿に満ちているのを見た。

6:8 わたしはまた主の言われる声を聞いた。「わたしはだれをつかわそうか。だれがわれわれのために行くだろうか」。その時わたしは言った、「ここにわたしがおります。わたしをおつかわしてください」。

Iヨハ 1:1~3 (口語訳)

1:1 初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見たもの、よく見て手でさわったもの、すなわち、いのちの言について――

1:2 このいのちが現れたので、この永遠のいのちをわたしたちは見て、そのあかしをし、かつ、あなたがたに告げ知らせるのである。この永遠のいのちは、父と共にいましたが、今やわたしたちに現れたものである――

1:3 すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。

ルカ 1:1~3 (口語訳)

1:1 わたしたちの間に成就された出来事を、最初から親しく見た人々であって、

1:2 御言に仕えた人々が伝えたとおりの物語に書き連ねようと、多くの人が手を着けましたが、

1:3 テオビロ閣下よ、わたしもすべての事を初めから詳しく調べていますので、ここに、それを順序正しく書きつづって、閣下に献じることになりました。

ヨハ 20:30、31 (口語訳)

20:30 イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。

20:31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

エゼ 4:1~8 (口語訳)

4:1 人の子よ、一枚のかわらを取って、あなたの前に置き、その上にエルサレムの町を描きなさい。

4:2 そして、これを包囲し、これに向かって堡塁を建て、塁を築き、陣営を敷き、破城槌を周囲に配備しなさい。

4:3 自ら鉄の板を取り、それを自分と都との間に鉄の壁とし、あなたの顔を都に向けなさい。こうして都は包囲される。あなたがそれを包囲するのだ。これはイスラエルの家に対するしるしである。

4:4 左脇を下にして横たわり、イスラエルの家の罪を負いなさい。あなたは横たわっている日の数だけ、彼らの罪を負わなければならない。

4:5 わたしは彼らの罪の年数を、日の数にして、三百九十日と定める。こうして、あなたはイスラエルの家の罪を負わねばならない。

4:6 その期間が終わったら、次に右脇を下にして横たわり、ユダの家の罪を四十日間負わねばならない。各一年を一日として、それをあなたに課す。

4:7 あなたは包囲されたエルサレムに顔を向け、腕をまくり上げて、これに向かって預言しなさい。

4:8 わたしがあなたに縄をかけるので、あなたはその包囲の日が終わるまで、一方の脇から他の脇へと寝返りを打つことができなくなる。

4:2 そしてこれを取り囲み、これにむかって雲梯を設け、塁を築き、陣を張り、その回りに城くずしを備えてこれを攻めなさい。

4:3 また鉄の板をとり、それをあなたと町の間に置いて鉄の壁となし、あなたの顔をこれに向けなさい。町をこのように囲んで、その包囲を押し進めなさい。これがイスラエルの家のしるしである。

4:4 あなたはまた自分の左脇を下にして寝なさい。わたしはあなたの上にイスラエルの家の罰を置く。あなたはこうにして寝ている日の間、彼らの罰を負わなければならない。

4:5 わたしは彼らの罰の年数に等しいその日数、すなわち三百九十日をあなたのために定める。その間あなたはイスラエルの家の罰を負わなければならない。

4:6 あなたはその期間を終ったなら、また右脇を下にして寝て、ユダの家の罰を負わなければならない。わたしは一日を一年として四十日をあなたのために定める。

4:7 あなたは自分の顔をエルサレムの包囲の方に向け、腕をあらわし、町に向かって預言しなさい。

4:8 見よ、わたしはあなたに、なわをかけて、あなたの包囲の期間の終るまで、左右に動くことができないようにする。

火曜日 10月27日 口頭によるメッセージ

問3 IIペトロ（ペテロ）1:18～21 を読んでください。神の預言者によって口頭で語られたメッセージが、書き記されたものと同じように靈感を受け、信頼できるものであったと、私たちはいかに確信を持つことができますか。

神はアダムとエバに、墮罪前にも(創2:16、17)、墮罪後にも(同3:9～19)語りかけられました。いずれの場合も、彼らは神の言葉を完全に理解しました。神の声は、シナイ山でも(出20:1～20)、イエスのバプテスマや変容の場面でも(マタ3:17、17:5)、はっきり聞こえました。私たちは、人から話しかけられるとき、誤解することがあるかもしれませんが、神が誰かに話しかけられるとき、誤解や惑わしは決してありません。

聖書は、「神はモーセに仰せになった。『わたしは主である』」〔口語訳「神はモーセに言われた、『わたしは主である』」〕(出6:2)と断言しています。多くの聖書記者は、神

から語りかけられたとき、その声を聞いたと認めています。例えば、イザヤ(イザ 8:1, 11)、エレミヤ(エレ 1:4, 9, 11)、エゼキエル(エゼ 3:16, 6:1)がそうでした。こうした主張や類似の主張を否定しようとする試みは、結局、預言者の誠実さや聖書そのものの信頼性を疑うことにつながります。

神が預言者に、理解可能な人間の言葉で語りかけられたように、預言者もそれぞれの聴衆に、理解可能な言葉で語りかけました。例えば、ノアは神の真の預言者であり、忠実な「義の宣伝者」(Ⅱペテ 2:5、口語訳)でした。彼は聖書のいずれの部分も書き記しませんでした。同時代の人々に神のメッセージを口頭で伝え、そのメッセージは、(聖書に書巻を残した)正典預言者の著作物に劣らず靈感に満ちていました。

ナタン、エリヤ、エリシャ、バプテスマのヨハネをはじめ、ほかにも幾人かの預言者は、聖書のいずれの部分も書き記しませんでした。その代わりに、彼らも口頭でメッセージを伝えました。

では、イエス・キリストご自身はどうだったでしょうか。福音書には、地上での働きの中で、イエスが「指で地面に何か書き始められた」〔口語訳「指で地面に何か書いておられた」〕(ヨハ 8:6)と記されています。それだけです。イエスがほかにも何かを書かれたという記録はありません。しかし彼は、「権威ある者として」〔口語訳「権威ある者のように」〕(マタ 7:29)口頭で教え、説教されました。彼の話聞いた者たちの中には、「今まで、あの人のように話した人はいません」〔口語訳「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」〕(ヨハ 7:40, 46)と告白した人もいました。イエスは、おもに口頭で神のメッセージをお伝えになったのです。イエスご自身が聖書のいずれの書も書き記されなかったからといって、彼のメッセージは、権威においても、従わせる力においても、決して劣るものではありませんでした。

【参考】英語テキストにある文

How fascinating that God has prophets who had no writings in the Bible. Why do these noncanonical prophets also carry authority?

聖書に記述(書巻)を残していない預言者を神が用いられるとは何と興味深いことでしょう。なぜ、こうした正典に含まれていない預言者にも権威があるのでしょうか。

35

Ⅱペト 1:18~21 (新共同訳)

1:18 わたしたちは、聖なる山にイエスといたとき、天から響いてきたこの声を聞いたのです。

1:19 こうして、わたしたちには、預言の言葉はいっそう確かなものとなっています。夜が明け、明けの明星があなたがたの心の中に昇るときまで、暗い所に輝くともし火として、どうかこの預言の言葉に留意してください。

1:20 何よりもまず心得てほしいのは、聖書の預言は何一つ、自分勝手に解釈すべきではないということです。

Ⅱペテ 1:18~21 (口語訳)

1:18 わたしたちもイエスと共に聖なる山にいて、天から出たこの声を聞いたのである。

1:19 こうして、預言の言葉は、わたしたちにいっそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい。

1:20 聖書の預言はすべて、自分勝手に解釈すべきでないことを、まず第一に知るべきである。

1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志に基づいて語られたのではなく、人々が聖霊に導かれて神からの言葉を語ったものだからです。

創 2:16、17 (新共同訳)

2:16 主なる神は人に命じて言われた。

「園のすべての木から取って食べなさい。

2:17 ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」

創 3:9～19 (新共同訳)

3:9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」

3:10 彼は答えた。「あなたの足音が園の中に聞こえたので、恐ろしくなり、隠れております。わたしは裸ですから。」

3:11 神は言われた。「お前が裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」

3:12 アダムは答えた。「あなたがわたしと共にいるようにしてくださった女が、木から取って与えたので、食べました。」

3:13 主なる神は女に向かって言われた。「何ということをしたのか。」女は答えた。「蛇がだましたので、食べてしまいました。」

3:14 主なる神は、蛇に向かって言われた。「このようなことをしたお前は、あらゆる家畜、あらゆる野の獣の中で、呪われるものとなった。お前は、生涯這いまわり、塵を食らう。」

3:15 お前と女、お前の子孫と女の子孫の間に、わたしは敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く。」

3:16 神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め、彼はお前を支配する。」

3:17 神はアダムに向かって言われた。「お前は女の声に従い、取って食べるなど命じた木から食べた。お前のゆえに、土は呪われるものとなった。お前は、生涯食べ物を得ようと苦しむ。」

3:18 お前に対して、土は茨とあざみを生

1:21 なぜなら、預言は決して人間の意志から出たものではなく、人々が聖霊に感じ、神によって語ったものだからである。

創 2:16、17 (口語訳)

2:16 主なる神はその人に命じて言われた、「あなたは園のどの木からでも心のままに取って食べてよろしい。」

2:17 しかし善悪を知る木からは取って食べてはならない。それを取って食べると、きっと死ぬであろう。」

創 3:9～19 (口語訳)

3:9 主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか。」

3:10 彼は答えた、「園の中であなたの歩まれる音を聞き、わたしは裸だったので、恐れて身を隠したのです。」

3:11 神は言われた、「あなたが裸であることを、だれが知らせたのか。食べるなど、命じておいた木から、あなたは取って食べたのか。」

3:12 人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです。」

3:13 そこで主なる神は女に言われた、「あなたは、なんということをしたのです。」女は答えた、「へびがわたしをだましたのです。それでわたしは食べました。」

3:14 主なる神はへびに言われた、「おまえは、この事を、したので、すべての家畜、野のすべての獣のうち、最ものろわれる。おまえは腹で、這いあるき、一生、ちりを食べるであろう。」

3:15 わたしは恨みをおく、おまえと女とのあいだに、おまえのすえと女のすえとの間に。彼はおまえのかしらを砕き、おまえは彼のかかとを砕くであろう。」

3:16 つぎに女に言われた、「わたしはあなたの産みの苦しみを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。それでもなお、あなたは夫を慕い、彼はあなたを治めるであろう。」

3:17 更に人に言われた、「あなたが妻の言葉を聞いて、食べるなど、わたしが命じた木から取って食べたので、地はあなたのためにのろわれ、あなたは一生、苦しんで地から食物を取る。」

3:18 地はあなたのために、いばらとあざ

えいでさせる/野の草を食べようとするお前に。

13:19 お前は顔に汗を流してパンを得る/土に返るときまで。お前がそこから取られた土に。塵にすぎないお前は塵に返る。」

出 20:1~20 (新共同訳)

20:1 神はこれらすべての言葉を告げられた。

20:2 「わたしは主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。

20:3 あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

20:4 あなたはいかなる像も造ってはならない。上は天にあり、下は地にあり、また地の下の水の中にある、いかなるものの形も造ってはならない。

20:5 あなたはそれらに向かってひれ伏したり、それらに仕えたりしてはならない。わたしは主、あなたの神。わたしは熱情の神である。わたしを否む者には、父祖の罪を子孫に三代、四代までも問うが、

20:6 わたしを愛し、わたしの戒めを守る者には、幾千代にも及ぶ慈しみを与える。

20:7 あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。みだりにその名を唱える者を主は罰せずにはおかない。

20:8 安息日を心に留め、これを聖別せよ。
20:9 六日の間働いて、何であれあなたの仕事をし、

20:10 七日目は、あなたの神、主の安息日であるから、いかなる仕事もしてはならない。あなたも、息子も、娘も、男女の奴隷も、家畜も、あなたの町の門の中に寄留する人々も同様である。

20:11 六日の間に主は天と地と海とそこにあるすべてのものを造り、七日目に休まれたから、主は安息日を祝福して聖別されたのである。

20:12 あなたの父母を敬え。そうすればあなたは、あなたの神、主が与えられる土地に長く生きることができる。

20:13 殺してはならない。

20:14 姦淫してはならない。

みとを生じ、あなたは野の草を食べるであろう。

3:19 あなたは顔に汗してパンを食べ、ついに土に帰る、あなたは土から取られたのだから。あなたは、ちりだから、ちりに帰る」。

出 20:1~20 (口語訳)

20:1 神はこのすべての言葉を語って言われた。

20:2 「わたしはあなたの神、主であって、あなたをエジプトの地、奴隷の家から導き出した者である。

20:3 あなたはわたしのほかに、なにものをも神としてはならない。

20:4 あなたは自分のために、刻んだ像を造ってはならない。上は天にあるもの、下は地にあるもの、また地の下の水のなかにあるものの、どんな形をも造ってはならない。

20:5 それにひれ伏してはならない。それに仕えてはならない。あなたの神、主であるわたしは、ねたむ神であるから、わたしを憎むものは、父の罪を子に報いて、三、四代に及ぼし、

20:6 わたしを愛し、わたしの戒めを守るものには、恵みを施して、千代に至るであろう。

20:7 あなたは、あなたの神、主の名を、みだりに唱えてはならない。主は、み名をみだりに唱えるものを、罰しないでは置かないであろう。

20:8 安息日を覚えて、これを聖とせよ。
20:9 六日のあいだ働いてあなたのすべてのわざをせよ。

20:10 七日目はあなたの神、主の安息日であるから、なんのわざをもしてはならない。あなたもあなたのむすこ、娘、しもべ、はしため、家畜、またあなたの門のうちにいる他国の人もそうである。

20:11 主は六日のうちに、天と地と海と、その中のすべてのものを造って、七日目に休まれたからである。それで主は安息日を祝福して聖とされた。

20:12 あなたの父と母を敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである。

20:13 あなたは殺してはならない。

20:14 あなたは姦淫してはならない。

20:15 盗んではならない。

20:16 隣人に関して偽証してはならない。

20:17 隣人の家を欲してはならない。隣人の妻、男女の奴隷、牛、ろばなど隣人のものを一切欲してはならない。」

20:18 民全員は、雷鳴がとどろき、稲妻が光り、角笛の音が鳴り響いて、山が煙に包まれる有様を見た。民は見て恐れ、遠く離れて立ち、

20:19 モーセに言った。「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞きます。神がわたしたちにお語りにならないようにしてください。そうでないと、わたしたちは死んでしまいます。」

20:20 モーセは民に答えた。「恐れることはない。神が来られたのは、あなたたちを試すためであり、また、あなたたちの前に神を畏れる畏れをおいて、罪を犯させないようにするためである。」

マタ 3:17 (新共同訳)

3:17 そのとき、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が、天から聞こえた。

マタ 17:5 (新共同訳)

17:5 ペトロがこう話しているうちに、光り輝く雲が彼らを覆った。すると、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者。これに聞け」という声が雲の中から聞こえた。

出 6:2 (新共同訳)

6:2 神はモーセに仰せになった。「わたしは主である。」

イザ 8:1、11 (新共同訳)

8:1 主はわたしに言われた。「大きな羊皮紙を取り、その上に分かりやすい書き方で、『マヘル・シャル・ハシュ・バズ(分捕りは早く、略奪は速やかに来る)』と書きなさい」と。

8:11 主は御手をもってわたしをとらえ、この民の行く道を行かないように戒めて言われた。

エレ 1:4、9、11 (新共同訳)

1:4 主の言葉がわたしに臨んだ。

1:9 主は手を伸ばして、わたしの口に触れ/主はわたしに言われた。「見よ、わたしはあなたの口に/わたしの言葉を授ける。」

1:11 主の言葉がわたしに臨んだ。「エレミ

20:15 あなたは盗んではならない。

20:16 あなたは隣人について、偽証してはならない。

20:17 あなたは隣人の家をむさぼってはならない。隣人の妻、しもべ、はしため、牛、ろば、またすべて隣人のものをむさぼってはならない。」

20:18 民は皆、かみなりと、いなずまと、ラッパの音と、山の煙っているのを見た。民は恐れおののき、遠く離れて立った。

20:19 彼らはモーセに言った、「あなたがわたしたちに語ってください。わたしたちは聞き従います。神がわたしたちに語られぬようにしてください。それでなければ、わたしたちは死ぬでしょう」。

20:20 モーセは民に言った、「恐れてはならない。神はあなたがたを試みるため、またその恐れをあなたがたの目の前ににおいて、あなたがたが罪を犯さないようにするために臨まれたのである」。

マタ 3:17 (口語訳)

3:17 また天から声があって言った、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である」。

マタ 17:5 (口語訳)

17:5 彼がまだ話し終えないうちに、たちまち、輝く雲が彼らをおおい、そして雲の中から声がした、「これはわたしの愛する子、わたしの心にかなう者である。これに聞け」。

出 6:2 (口語訳)

6:2 神はモーセに言われた、「わたしは主である」。

イザ 8:1、11 (口語訳)

8:1 主はわたしに言われた、「一枚の大きな札を取って、その上に普通の文字で、『マヘル・シャル・ハシ・バズ』と書きなさい」。

8:11 主は強いみ手をもって、わたしを捕え、わたしに語り、この民の道に歩まないように、さとして言われた、

エレ 1:4、9、11 (口語訳)

1:4 主の言葉がわたしに臨んで言う、

1:9 そして主はみ手を伸べて、わたしの口につけ、主はわたしに言われた、「見よ、わたしの言葉をあなたの口に入れた。」

1:11 主の言葉がまたわたしに臨んで言

やよ、何が見えるか。」わたしは答えた。「アーモンド(シャークード)の枝が見えます。」

エゼ 3:16 (新共同訳)

3:16 七日の後、主の言葉がわたしに臨んだ。

エゼ 6:1 (新共同訳)

6:1 主の言葉がわたしに臨んだ。

Ⅱペト 2:5 (新共同訳)

2:5 また、神は昔の人々を容赦しないで、不信心な者たちの世界に洪水を引き起こし、義を説いていたノアたち八人を保護なさったのです。

ヨハ 8:6 (新共同訳)

8:6 イエスを試して、訴える口実を得るために、こう言ったのである。イエスはかがみ込み、指で地面に何か書き始められた。

マタ 7:29 (新共同訳)

7:29 彼らの律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。

ヨハ 7:40、46 (新共同訳)

7:40 この言葉を聞いて、群衆の中には、「この人は、本当にあの預言者だ」と言う者や、

7:46 下役たちは、「今まで、あの人のように話した人はいません」と答えた。

う、「エレミヤよ、あなたは何を見るか」。わたしは答えた、「あめんどうの枝を見ます」。

エゼ 3:16 (口語訳)

3:16 七日過ぎて後、主の言葉がわたしに臨んだ、

エゼ 6:1 (口語訳)

6:1 主の言葉が、わたしに臨んで言った、

Ⅱペテ 2:5 (口語訳)

2:5 また、古い世界をそのままにしておかないで、その不信仰な世界に洪水をきたらせ、ただ、義の宣伝者ノアたち八人の者だけを保護された。

ヨハ 8:6 (口語訳)

8:6 彼らがそう言ったのは、イエスをためして、訴える口実を得るためであった。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何か書いておられた。

マタ 7:29 (口語訳)

7:29 それは律法学者たちのようではなく、権威ある者のように、教えられたからである。

ヨハ 7:40、46 (口語訳)

7:40 群衆のある者がこれらの言葉を聞いて、「このかたは、ほんとうに、あの預言者である」と言い、

7:46 下役どもは答えた、「この人の語るように語った者は、これまでにありませんでした」。

水曜日 10月28日 書き記されたメッセージ

有名な演説の中には、人々の人生に深い影響を与え、歴史の流れさえ変えたものがあります。もしこれらの演説が記録されていなければ、その言葉は時の経過とともに色あせたり、歪められたりしていただいでしょう。このように、書き記すことは語られた言葉に永続性を与え、その永続性によってメッセージは時を超えて伝えられるのです。

イスラエルの人々がエジプトを出てアマレク人を打ち破った直後、神はモーセに、「このことを文書として書き記して記念とし(なさい)」[口語訳「これを書物にしるして記念とし(なさい)」](出17:14)と命じられました。モーセに始まり(彼は聖書の最初の五書、詩篇90篇、そしてヨブ記を著しました)、聖霊は正典の預言者たちを導き、現在聖書の66巻を構成する文書を生み出させました。

問4 出エジプト記17:14、ヨハネ20:30、31、Ⅰコリント10:11、黙示録1:19を読んでください。神が預言者たちに、ご自分がお与えになったメッセージを書き記すように命じられたのは、どんな理由からでしたか。

聖書のさまざまな書巻は、それぞれの記者の文体や文章力を反映しています。来週の研究で論じるように、彼らの個人的な特徴や多様な文体は、そのメッセージの価値を損なったりしません。なぜなら、靈感には「度合い」というものがないからです。聖書のある部分は、ほかの部分よりも、今日の私たちの生活や信仰にとって明らかに関連性があり、適用しやすいものです。しかし、この事実によって、聖書のある部分がほかの部分よりも靈感を強く受けているということにはなりません。

時として聖書記者たちは、まず自分が口頭で語った靈感によるメッセージを、自分自身で、あるいは信頼できる協力者によって記録しました。申命記において、モーセは死の直前にイスラエルの人々に語った最後の言葉を記していますし、四福音書には、イエスが地上での働きの中で語られた多くの説教や教えが記載されています。

しかし預言者が、靈感を受けていない資料(使徒 17:28、I コリ 15:33、テト 1:12)や、サタンの言葉さえ引用した例(創 3:1~5、マタ 4:1~11)もあります。私たちは、預言者がほかの人の感情や願いを記録すると同時に、自分自身の人間的な反応も表現していたことを忘れてはなりません(ダニ 8:27、黙 22:8、9 参照)。さらに聖書には、倣うべき多くの良い例だけでなく、避けるべき多くの悪い例も記されています(I コリ 10:1~11)。

聖書を読むとき、聖書は完璧な言葉で書かれてはいないものの、時の試練に耐えうる誤りなきメッセージを伝えていることを心に留めておくべきです。

36

出 17:13、14 (新共同訳)

17:13 ヨシュアは、アマレクとその民を剣にかけて打ち破った。

17:14 主はモーセに言われた。「このことを文書に書き記して記念とし、また、ヨシュアに読み聞かせよ。『わたしは、アマレクの記憶を天の下から完全にぬぐい去る』と。」

ヨハ 20:30、31 (新共同訳)

20:30 このほかにも、イエスは弟子たちの前で、多くのしるしをなさったが、それはこの書物に書かれていない。

20:31 これらのことが書かれたのは、あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。

I コリ 10:11 (新共同訳)

10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。

黙 1:19 (新共同訳)

1:19 さあ、見たことを、今あることを、今後起ころうとしていることを書き留めよ。

出 17:13、14 (口語訳)

17:13 ヨシュアは、つるぎにかけてアマレクとその民を打ち敗った。

17:14 主はモーセに言われた、「これを書物にしるして記念とし、それをヨシュアの耳に入れなさい。わたしは天が下からアマレクの記憶を完全に消し去るであろう」。

ヨハ 20:30、31 (口語訳)

20:30 イエスは、この書に書かれていないしるしを、ほかにも多く、弟子たちの前で行われた。

20:31 しかし、これらのことを書いたのは、あなたがたがイエスは神の子キリストであると信じるためであり、また、そう信じて、イエスの名によって命を得るためである。

I コリ 10:11 (口語訳)

10:11 これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。

黙 1:19 (口語訳)

1:19 そこで、あなたの見たこと、現在のこと、今後起ころうとすることを、書きとめな

使徒 17:28 (新共同訳)

17:28 皆さんのうちのある詩人たちも、『我らは神の中に生き、動き、存在する』『我らもその子孫である』と、言っているとおりです。

I コリ 15:33 (新共同訳)

15:33 思い違いをしてはいけません。「悪いつきあいは、良い習慣を台なしにする」のです。

テト 1:12 (新共同訳)

1:12 彼らのうちの一人、預言者自身が次のように言いました。「クレタ人はいつもうそつき、悪い獣、怠惰な大食漢だ。」

創 3:1~5 (新共同訳)

3:1 主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」

3:2 女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。」

3:3 でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、触れてもいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

3:4 蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。」

3:5 それを食べると、目が開け、神のように善悪を知るものとなることを神はご存じなのだ。」

マタ 4:1~11 (新共同訳)

4:1 さて、イエスは悪魔から誘惑を受けるため、“霊”に導かれて荒れ野に行かれた。4:2 そして四十日間、昼も夜も断食した後、空腹を覚えられた。

4:3 すると、誘惑する者が来て、イエスに言った。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」

4:4 イエスはお答えになった。『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』と書いてある。」

4:5 次に、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、

4:6 言った。「神の子なら、飛び降りたら

さい。

使徒 17:28 (口語訳)

17:28 われわれは神のうちに生き、動き、存在しているからである。あなたがたのある詩人たちも言ったように、『われわれも、確かにその子孫である』。

I コリ 15:33 (口語訳)

15:33 まちがってはいけません。「悪い交わりは、良いならわしをそこなう」。

テト 1:12 (口語訳)

1:12 クレタ人のうちのある預言者が「クレタ人は、いつもうそつき、たちの悪いけもの、なまけ者の食いしんぼう」と言っているが、

創 3:1~5 (口語訳)

3:1 さて主なる神が造られた野の生き物のうちで、へびが最も狡猾であった。へびは女に言った、「園にあるどの木からも取って食べるなど、ほんとうに神が言われたのですか。」

3:2 女はへびに言った、「わたしたちは園の木の実を食べることは許されていますが、

3:3 ただ園の中央にある木の实については、これを取って食べるな、これに触れるな、死んではいけないからと、神は言われました。」

3:4 へびは女に言った、「あなたがたは決して死ぬことはないでしょう。」

3:5 それを食べると、あなたがたの目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知っておられるのです」。

マタ 4:1~11 (口語訳)

4:1 さて、イエスは御霊によって荒野に導かれた。悪魔に試みられるためである。4:2 そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。

4:3 すると試みる者がきて言った、「もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらん下さい」。

4:4 イエスは答えて言われた、「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」。

4:5 それから悪魔は、イエスを聖なる都に連れて行き、宮の頂上に立たせて

4:6 言った、「もしあなたが神の子である

どうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。』

4:7 イエスは、『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある』と言われた。

4:8 更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、

4:9「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。

4:10 すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」

4:11 そこで、悪魔は離れ去った。すると、天使たちが来てイエスに仕えた。

ダニ 8:27 (新共同訳)

8:27 わたしダニエルは疲れ果てて、何日か病気になっていた。その後、起きて宮廷の務めに戻った。しかし、この幻にぼう然となり、理解できずにいた。

黙 22:8、9 (新共同訳)

22:8 わたしは、これらのことを聞き、また見たヨハネである。聞き、また見たとき、わたしは、このことを示してくれた天使の足もとにひれ伏して、拝もうとした。

22:9 すると、天使はわたしに言った。「やめよ。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書物の言葉を守っている人たちと共に、仕える者である。神を礼拝せよ。」

I コリ 10:1~11 (新共同訳)

10:1 兄弟たち、次のことはぜひ知っておいてほしい。わたしたちの先祖は皆、雲の下におり、皆、海を通り抜け、

10:2 皆、雲の中、海の中で、モーセに属するものとなる洗礼を授けられ、

10:3 皆、同じ霊的な食物を食べ、

10:4 皆が同じ霊的な飲み物を飲みました。彼らが飲んだのは、自分たちに離れずについて来た霊的な岩からでしたが、この岩こそキリストだったので。

10:5 しかし、彼らの大部分は神の御心に適わず、荒れ野で滅ぼされてしまいました

なら、下へ飛びおりてごらん下さい。『神はあなたのために御使たちにお命じになると、あなたの足が石に打ちつけられないように、彼らはあなたを手でささえるであろう』と書いてありますから」。

4:7 イエスは彼に言われた、『主なるあなたの神を試みてはならない』とまた書いてある」。

4:8 次に悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華とを見せて

4:9 言った、「もしあなたが、ひれ伏してわたしを拝むなら、これらのものを皆あなたにあげましょう」。

4:10 するとイエスは彼に言われた、「サタンよ、退け。『主なるあなたの神を拝し、ただ神にのみ仕えよ』と書いてある」。

4:11 そこで、悪魔はイエスを離れ去り、そして、御使たちがみもとにきて仕えた。

ダニ 8:27 (口語訳)

8:27 われダニエルは疲れはてて、数日の間病みわずらったが、後起きて、王の事務を執った。しかし、わたしはこの幻の事を思つて驚いた。またこれを悟ることができなかった。

黙 22:8、9 (口語訳)

22:8 これらのことを見聞きした者は、このヨハネである。わたしが見聞きした時、それらのことを示してくれた御使の足もとにひれ伏して拝そうとすると、

22:9 彼は言った、「そのようなことをしてはいけない。わたしは、あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書の言葉を守る者たちと、同じ僕仲間である。ただ神だけを拝しなさい」。

I コリ 10:1~11 (口語訳)

10:1 兄弟たちよ。このことを知らずにいてもらいたくない。わたしたちの先祖はみな雲の下におり、みな海を通り、

10:2 みな雲の中、海の中で、モーセにつくバプテスマを受けた。

10:3 また、みな同じ霊の食物を食べ、

10:4 みな同じ霊の飲み物を飲んだ。すなわち、彼らについてきた霊の岩から飲んだのであるが、この岩はキリストにほかならない。

10:5 しかし、彼らの中の大多数は、神のみこころにかなわなかったので、荒野で

た。

10:6 これらの出来事は、わたしたちを戒める前例として起こったのです。彼らが悪をむさぼったように、わたしたちが悪をむさぼることのないために。

10:7 彼らの中のある者がしたように、偶像を礼拝してはいけない。「民は座って飲み食いし、立って踊り狂った」と書いてあります。

10:8 彼らの中のある者がしたように、みだらなことをしないようにしましょう。みだらなことをした者は、一日で二万三千人倒れて死にました。

10:9 また、彼らの中のある者がしたように、キリストを試みないようにしよう。試みた者は、蛇にかまれて滅びました。

10:10 彼らの中には不平を言う者がいたが、あなたがたはそのように不平を言うてはいけない。不平を言った者は、滅ぼす者に滅ぼされました。

10:11 これらのことは前例として彼らに起こったのです。それが書き伝えられているのは、時の終わりに直面しているわたしたちに警告するためなのです。

滅ぼされてしまった。

10:6 これらの出来事は、わたしたちに対する警告であって、彼らが悪をむさぼったように、わたしたちも悪をむさぼることのないためなのである。

10:7 だから、彼らの中のある者たちのように、偶像礼拝者になってはならない。すなわち、「民は座して飲み食いをし、また立って踊り戯れた」と書いてある。

10:8 また、ある者たちがしたように、わたしたちは不品行をしてはならない。不品行をしたため倒された者が、一日に二万三千人もあった。

10:9 また、ある者たちがしたように、わたしたちは主を試みてはならない。主を試みた者は、へびに殺された。

10:10 また、ある者たちがつばやいたように、つばやいてはならない。つばやいた者は、「死の使」に滅ぼされた。

10:11 これらの事が彼らに起ったのは、他に対する警告としてであって、それが書かれたのは、世の終りに臨んでいるわたしたちに対する訓戒のためである。

木曜日 10月29日 劇、象徴、たとえ

聖書には、多種多様な比喩表現や象徴表現が用いられています。例えば、族長たちの祭壇、モーセの幕屋、エルサレムの神殿など、旧約聖書の犠牲制度全体は、十字架におけるキリストのあがないの犠牲と、天における彼の祭司職（ヘブ 8:1～6）を視覚的にあらわしたものでした。

ダニエルの預言では、世界の王国や権力が、巨大な像のさまざまな部分（ダニ 2:31～45）、さまざまな動物や角（同 7、8 章）、2人の王（同 11 章）などによってあらわされています。同様の表現は黙示録にも見られ、13章の2匹の獣がその一例です。

イエスは教えの中で、例えばご自身を「命のパン」（ヨハ 6:35、41～58）、「世の光」（同 8:12、9:5）、「まことのぶどうの木」（同 15:1～8）と表現されました。また、「種を時く人」〔口語訳「種まき」〕のたとえ（マタ 13:1～9、18～23）やそのほかのいくつかのたとえ（同 13:24～52 など）を通して、イエスはご自分の王国の性質と成長を説明なさいました。

問5 エゼキエル 4:1～8 を読んでください。神は言葉で語るだけでなく、なぜ一部のメッセージを劇によって表現されたのだと思いますか。

エゼキエル 4:1～8 には、生き生きとした劇による表現が見られます。そこでは、神が預言者エゼキエルに、エルサレムのミニチュア模型を作り、まず左脇を下にし

て390日間横たわり(イスラエルの家の象徴)、その後、右脇を下にして40日間横たわりなさい(ユダの家の象徴)とお求めになりました。もう一つの視覚的な体験としては、神の命令によってホセアが娼婦ゴメルと結婚したことがあります。これは、神に対するイスラエルの霊的な不忠実さをあらわしていました(ホセ 1:2~9)。

エゼキエルとホセアの劇的体験は、今日の私たちには極めて衝撃的に思えますが、それこそが狙いでした。それらの体験は、私たちにとってだけでなく、当時の人々にとっても衝撃的であるべきだったのです。預言者の警告が公然と拒絶されていた時代にあつて(代下 36:15~21 参照)、神の最後の憐れみの行為は、人々を真の悔い改めへと導くために、彼らの真の状態を劇によって気づかせることでした。このような劇による表現は、彼らが神の警告をどれほど真剣に受け止めるべきだったかを、確かに示していたはずで

今日、例えば、私たちがラオディキア(ラオデキヤ)的な状態にあることへの警告として、どんな劇による表現が考えられるでしょうか(黙 3:14~18 参照)。

37

ヘブ 8:1~6 (新共同訳)

8:1 今述べていることの要点は、わたしたちにはこのような大祭司が与えられていて、天におられる大いなる方の玉座の右の座に着き、

8:2 人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋で、仕えておられるということです。

8:3 すべて大祭司は、供え物といけにえとを献げるために、任命されています。それで、この方も、何か献げる物を持っておられなければなりません。

8:4 もし、地上におられるのだとすれば、律法に従って供え物を献げる祭司たちが現にいる以上、この方は決して祭司ではありえなかったでしょう。

8:5 この祭司たちは、天にあるものの写しであり影であるものに仕えており、そのことは、モーセが幕屋を建てようとしたときに、お告げを受けたとおりです。神は、「見よ、山で示された型どおりに、すべてのものを作れ」と言われたのです。8:6 しかし、今、わたしたちの大祭司は、それよりはるかに優れた務めを得ておられます。更にまさった約束に基づいて制定された、更にまさった契約の仲介者になられたからです。

ダニ 2:31~45 (新共同訳)

2:31 王様、あなたは一つの像を御覧にな

ヘブ 8:1~6 (口語訳)

8:1 以上述べたことの要点は、このような大祭司がわたしたちのためにおられ、天にあつて大能者の御座の右に座し、

8:2 人間によらず主によって設けられた真の幕屋なる聖所で仕えておられる、ということである。

8:3 おおよそ、大祭司が立てられるのは、供え物やいけにえをささげるためにほかならない。したがって、この大祭司もまた、何かささぐべき物を持っておられねばならない。

8:4 そこで、もし彼が地上におられたなら、律法にしたがって供え物をささげる祭司たちが、現にいるのだから、彼は祭司ではあり得なかったであろう。

8:5 彼らは、天にある聖所のひな型と影とに仕えている者にすぎない。それについては、モーセが幕屋を建てようとしたとき、御告げを受け、「山で示された型どおりに、注意してそのいっさいを作りなさい」と言われたのである。

8:6 ところがキリストは、はるかにすぐれた務を得られたのである。それは、さらにまさった約束に基いて立てられた、さらにまさった契約の仲保者となられたことによる。

ダニ 2:31~45 (口語訳)

2:31 王よ、あなたは一つの大きな像

りました。それは巨大で、異常に輝き、あなたの前に立ち、見るも恐ろしいものでした。

2:32 それは頭が純金、胸と腕が銀、腹と腿が青銅、

2:33 すねが鉄、足は一部が鉄、一部が陶土でできていました。

2:34 見ておられると、一つの石が人手によらずに切り出され、その像の鉄と陶土の足を打ち砕きました。

2:35 鉄も陶土も、青銅も銀も金も共に砕け、夏の打穀場のもみ殻のようになり、風に吹き払われ、跡形もなくなりました。その像を打った石は大きな山となり、全地に広がったのです。

2:36 これが王様の御覧になった夢です。さて、その解釈をいたしましょう。

2:37 王様、あなたはすべての王の王です。天の神はあなたに、国と権威と威力と威光を受け、

2:38 人間も野の獣も空の鳥も、どこに住んでいようとみなあなたの手にゆだね、このすべてを治めさせられました。すなわち、あなたがその金の頭なのです。

2:39 あなたのあとに他の国が興りますが、これはあなたに劣るもの。その次に興る第三の国は青銅で、全地を支配します。

2:40 第四の国は鉄のように強い。鉄はすべてを打ち砕きますが、あらゆるものを破壊する鉄のように、この国は破壊を重ねます。

2:41 足と足指は一部が陶工の用いる陶土、一部が鉄であるのを御覧になりましたが、そのようにこの国は分裂しています。鉄が柔らかい陶土と混じっているのを御覧になったように、この国には鉄の強さもあります。

2:42 足指は一部が鉄、一部が陶土です。すなわち、この国には強い部分もあれば、もろい部分もあるのです。

2:43 また、鉄が柔らかい陶土と混じり合っているのを御覧になったように、人々は婚姻によって混じり合います。しかし、鉄が陶土と溶け合うことがないように、ひとつになることはありません。

が、あなたの前に立っているのを見られました。その像は大きく、非常に光り輝いて、恐ろしい外観をもっていました。

2:32 その像の頭は純金、胸と両腕とは銀、腹と、ももとは青銅、

2:33 すねは鉄、足の一部は鉄、一部は粘土です。

2:34 あなたが見ておられたとき、一つの石が人手によらずに切り出されて、その像の鉄と粘土との足を撃ち、これを砕きました。

2:35 こうして鉄と、粘土と、青銅と、銀と、金とはみな共に砕けて、夏の打ち場のもみがらのようになり、風に吹き払われて、あとかたもなくなりました。ところがその像を撃った石は、大きな山となって全地に満ちました。

2:36 これがその夢です。今わたしたちはその解き明かしを、王の前に申しあげましょう。

2:37 王よ、あなたは諸王の王であって、天の神はあなたに国と力と勢いと栄えとを賜い、

2:38 また人の子ら、野の獣、空の鳥はどこにいるものでも、皆これをあなたの手に与えて、ことごとく治めさせられました。あなたはあの金の頭です。

2:39 あなたの後にあなたに劣る一つの国が起ります。また第三に青銅の国が起って、全世界を治めるようになります。

2:40 第四の国は鉄のように強いでしょう。鉄はよくすべての物をこわし砕くからです。鉄がこれらをことごとく打ち砕くように、その国はこわし砕くでしょう。

2:41 あなたはその足と足の指を見られましたが、その一部は陶器師の粘土、一部は鉄であったので、それは分裂した国をさします。しかしあなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、その国には鉄の強さがあるでしょう。

2:42 その足の指の一部は鉄、一部は粘土であったように、その国は一部は強く、一部はもろいでしょう。

2:43 あなたが鉄と粘土との混じったのを見られたように、それらは婚姻によって、互に混ざるでしょう。しかし鉄と粘土とは混じらないように、かれとこれと相合することはありません。

2:44 この王たちの時代に、天の神は一つの国を興されます。この国は永遠に滅びることなく、その主権は他の民の手に渡ることなく、すべての国を打ち滅ぼし、永遠に続きます。

2:45 山から人手によらず切り出された石が、鉄、青銅、陶土、銀、金を打つのを御覧になりましたが、それによって、偉大な神は引き続き起こることを王様にお知らせになったのです。この夢は確かであり、解釈もまちがいございません。」

2:44 それらの王たちの世に、天の神は一つの国を立てられます。これはいつまでも滅びることがなく、その主権は他の民にわたされず、かえってこれらのもろもろの国を打ち破って滅ぼすでしょう。そしてこの国は立って永遠に至るのです。

2:45 一つの石が人手によらずに山から切り出され、その石が鉄と、青銅と、粘土と、銀と、金とを打ち砕いたのを、あなたが見られたのはこの事です。大いなる神がこの後に起るべきことを、王に知らされたのです。その夢はまことであって、この解き明かしは確かです。」

※ダニ 7、8、11、13 章は各自お手元の聖書をお読みください。

ヨハ 6:35 (新共同訳)

6:35 イエスは言われた。「わたしが命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。」

ヨハ 6:41~58 (新共同訳)

6:41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から降って来たパンである」と言われたので、イエスのことでつぶやき始め、6:42 こう言った。「これはヨセフの息子のイエスではないか。我々はその父も母も知っている。どうして今、『わたしは天から降って来た』などと言うのか。」

6:43 イエスは答えて言われた。「つぶやき合うのはやめなさい。」

6:44 わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらなければ、だれもわたしのもとへ来ることはできない。わたしはその人を終わりの日に復活させる。

6:45 預言者の書に、『彼らは皆、神によって教えられる』と書いてある。父から聞いて学んだ者は皆、わたしのもとに来る。

6:46 父を見た者は一人もいない。神のもとから来た者だけが父を見たのである。

6:47 はっきり言うておく。信じる者は永遠の命を得ている。

6:48 わたしは命のパンである。

6:49 あなたたちの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。

6:50 しかし、これは、天から降って来たパンであり、これを食べる者は死なない。

ヨハ 6:35 (口語訳)

6:35 イエスは彼らに言われた、「わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決してかわくことがない。」

ヨハ 6:41~58 (口語訳)

6:41 ユダヤ人らは、イエスが「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたので、イエスについてつぶやき始めた。6:42 そして言った、「これはヨセフの子イエスではないか。わたしたちはその父母を知っているではないか。わたしは天から下ってきたと、どうして今いうのか。」

6:43 イエスは彼らに答えて言われた、「互につぶやいてはいけない。」

6:44 わたしをつかわされた父が引きよせて下さらなければ、だれもわたしに来ることはできない。わたしは、その人々を終わりの日によみがえらせるであろう。

6:45 預言者の書に、『彼らはみな神に教えられるであろう』と書いてある。父から聞いて学んだ者は、みなわたしに来るのである。

6:46 神から出た者のほかに、だれかが父を見たのではない。その者だけが父を見たのである。

6:47 よくよくあなたがたに言うておく。信じる者には永遠の命がある。

6:48 わたしは命のパンである。

6:49 あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。

6:50 しかし、天から下ってきたパンを食べる人は、決して死ぬことはない。

6:51 わたしは、天から降って来た生きたパンである。このパンを食べるならば、その人は永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、世を生かすためのわたしの肉のことである。」

6:52 それで、ユダヤ人たちは、「どうしてこの人は自分の肉を我々に食べさせることができるのか」と、互いに激しく議論し始めた。

6:53 イエスは言われた。「はっきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたたちの内に命はない。

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、わたしはその人を終わりの日に復活させる。

6:55 わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

6:57 生きておられる父がわたしをお遣わしになり、またわたしが父によって生きるように、わたしを食べる者もわたしによって生きる。

6:58 これは天から降って来たパンである。先祖が食べたのに死んでしまったようなものとは違う。このパンを食べる者は永遠に生きる。」

ヨハ 8:12 (新共同訳)

8:12 イエスは再び言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

ヨハ 9:5 (新共同訳)

9:5 わたしは、世にいる間、世の光である。」

ヨハ 15:1~8 (新共同訳)

15:1 「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。しかし、実を結ぶものはみな、いよいよ豊かに実を結ぶように手入れをなさる。

15:3 わたしの話した言葉によって、あなたがたは既に清くなっている。

15:4 わたしにつながっていないさい。わた

6:51 わたしは天から下ってきた生きたパンである。それを食べる者は、いつまでも生きるであろう。わたしが与えるパンは、世の命のために与えるわたしの肉である」。

6:52 そこで、ユダヤ人らが互に論じて言った、「この人はどうして、自分の肉をわたしたちに与えて食べさせることができるのか」。

6:53 イエスは彼らに言われた、「よくよく言うておく。人の子の肉を食べず、また、その血を飲まなければ、あなたがたの内に命はない。

6:54 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者には、永遠の命があり、わたしはその人を終りの日によみがえらせるであろう。

6:55 わたしの肉はまことの食物、わたしの血はまことの飲み物である。

6:56 わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者はわたしにおり、わたしもまたその人におる。

6:57 生ける父がわたしをつかわされ、また、わたしが父によって生きているように、わたしを食べる者もわたしによって生きるであろう。

6:58 天から下ってきたパンは、先祖たちが食べたが死んでしまったようなものではない。このパンを食べる者は、いつまでも生きるであろう」。

ヨハ 8:12 (口語訳)

8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

ヨハ 9:5 (口語訳)

9:5 わたしは、この世にいる間は、世の光である」。

ヨハ 15:1~8 (口語訳)

15:1 わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。

15:2 わたしにつながっている枝で実を結ばないものは、父がすべてこれをとりのぞき、実を結ぶものは、もっと豊かに実らせるために、手入れしてこれをきれいになさるのである。

15:3 あなたがたは、わたしが語った言葉によって既にきよくされている。

15:4 わたしにつながっていないさい。そうす

しもあなたがたにつながっている。ぶどうの枝が、木につながっていないければ、自分では実を結ぶことができないように、あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ。わたしを離れては、あなたがたは何もできないからである。

15:6 わたしにつながっていない人がいれば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。そして、集められ、火に投げ入れられて焼かれてしまう。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたの内にいつもあるならば、望むものを何でも願いなさい。そうすればかなえられる。

15:8 あなたがたが豊かに実を結び、わたしの弟子となるなら、それによって、わたしの父は栄光をお受けになる。

マタ 13:1～9 (新共同訳)

13:1 その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座っておられた。

13:2 すると、大勢の群衆がそばに集まって来たので、イエスは舟に乗って腰を下ろされた。群衆は皆岸辺に立っていた。

13:3 イエスはたとえを用いて彼らに多くのことを語られた。「種を蒔く人が種蒔きに出て行った。

13:4 出ている間に、ある種は道端に落ち、鳥が来て食べてしまった。

13:5 ほかの種は、石だらけで土の少ない所に落ち、そこは土が浅いのですぐ芽を出した。

13:6 しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

13:7 ほかの種は茨の間に落ち、茨が伸びてそれをふさいでしまった。

13:8 ところが、ほかの種は、良い土地に落ち、実を結んで、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

13:9 耳のある者は聞きなさい。」

マタ 13:18～52 (新共同訳)

13:18 だから、種を蒔く人のたとえを聞

れば、わたしはあなたがたとつながっている。枝がぶどうの木につながっていないければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながっていないければ実を結ぶことができない。

15:5 わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。

15:6 人がわたしにつながっていないならば、枝のように外に投げ捨てられて枯れる。人々はそれをかき集め、火に投げ入れて、焼いてしまうのである。

15:7 あなたがたがわたしにつながっており、わたしの言葉があなたがたとどまっているならば、なんでも望むものを求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。

15:8 あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。

マタ 13:1～9 (口語訳)

13:1 その日、イエスは家を出て、海べにすわっておられた。

13:2 ところが、大ぜいの群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわられ、群衆はみな岸に立っていた。

13:3 イエスは譬で多くの事を語り、こう言われた、「見よ、種まきが種をまきに出て行った。

13:4 まいていううちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。

13:5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、

13:6 日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

13:7 ほかの種はいばらの地に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまった。

13:8 ほかの種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍にもなった。

13:9 耳のある者は聞くがよい。」

マタ 13:18～52 (口語訳)

13:18 そこで、種まきの譬を聞きなさい。

きなさい。

13:19 だれでも御国の言葉を聞いて悟らなければ、悪い者が来て、心の中に蒔かれたものを奪い取る。道端に蒔かれたものとは、こういう人である。

13:20 石だらけの所に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて、すぐ喜んで受け入れるが、

13:21 自分には根がないので、しばらくは続いても、御言葉のために艱難や迫害が起ると、すぐにつまずいてしまう人である。

13:22 茨の中に蒔かれたものとは、御言葉を聞くが、世の思い煩いや富の誘惑が御言葉を覆いふさいで、実らない人である。

13:23 良い土地に蒔かれたものとは、御言葉を聞いて悟る人であり、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍の実を結ぶのである。」

13:24 イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。

13:25 人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。

13:26 芽が出て、実てみると、毒麦も現れた。

13:27 僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』

13:28 主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、

13:29 主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。』

13:30 刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』

13:31 イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、

13:32 どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よりも大きくなり、空の

13:19 だれでも御国の言を聞いて悟らないならば、悪い者がきて、その人の心にまかれたものを奪いとって行く。道ばたにまかれたものというのは、そういう人のことである。

13:20 石地にまかれたものというのは、御言を聞くと、すぐに喜んで受ける人のことである。

13:21 その中に根がないので、しばらく続くだけであって、御言のために困難や迫害が起ってくると、すぐにつまずいてしまう。

13:22 また、いばらの中にまかれたものとは、御言を聞くが、世の心づかいと富の惑わしとが御言をふさぐので、実を結ばなくなる人のことである。

13:23 また、良い地にまかれたものとは、御言を聞いて悟る人のことであって、そういう人が実を結び、百倍、あるいは六十倍、あるいは三十倍にもなるのである。」

13:24 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、良い種を自分の畑にまいておいた人のようなものである。

13:25 人々が眠っている間に敵がきて、麦の中に毒麦をまいて立ち去った。

13:26 芽がはえて実を結ぶと、同時に毒麦もあらわれてきた。

13:27 僕たちがきて、家の主人に言った、『ご主人様、畑におまきになったのは、良い種ではありませんでしたか。どうして毒麦がはえてきたのですか。』

13:28 主人は言った、『それは敵のしわざだ』。すると僕たちが言った『では行って、それを抜き集めましょうか。』

13:29 彼は言った、『いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。』

13:30 収穫まで、両方とも育つままにしておけ。収穫の時になったら、刈る者に、まず毒麦を集めて束にして焼き、麦の方は集めて倉に入れてくれ、と言いつけよう。』

13:31 また、ほかの譬を彼らに示して言われた、「天国は、一粒のからし種のようなものである。ある人がそれをとって畑にまくと、

13:32 それはどんな種よりも小さいが、成長すると、野菜の中でいちばん大きく

鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」

13:33 また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

13:34 イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ、たとえを用いないでは何も語られなかった。

13:35 それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「わたしは口を開いてたとえを用い、天地創造の時から隠されていたことを告げる。」

13:36 それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。すると、弟子たちがそばに寄って来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。

13:37 イエスは答えになった。「良い種を蒔く者は人の子、

13:38 畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。

13:39 毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである。

13:40 だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。

13:41 人の子は天使たちを遣わし、つまずきとなるものすべてと不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、

13:42 燃え盛る炉の中に投げ込ませるのである。彼らは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。

13:43 そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

13:44 「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。

13:45 また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。

13:46 高価な真珠の一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。

13:47 また、天の国は次のようにたとえ

なり、空の鳥がきて、その枝に宿るほどの木になる」。

13:33 またほかの譬を彼らに語られた、「天国は、パン種のようなものである。女がこれを取って三斗の粉の中に混ぜると、全体がふくらんでくる」。

13:34 イエスはこれらのことをすべて、譬で群衆に語られた。譬によらないでは何事も彼らに語られなかった。

13:35 これは預言者によって言われたことが、成就するためである、「わたしは口を開いて譬を語り、世の初めから隠されていることを語り出そう」。

13:36 それからイエスは、群衆をあとに残して家にはいられた。すると弟子たちは、みもとにきて言った、「畑の毒麦の譬を説明してください」。

13:37 イエスは答えて言われた、「良い種をまく者は、人の子である。

13:38 畑は世界である。良い種と言うのは御国の子たちで、毒麦は悪い者の子たちである。

13:39 それをまいた敵は悪魔である。収穫とは世の終りのことで、刈る者は御使たちである。

13:40 だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそのとおりになるであろう。

13:41 人の子はその使たちをつかわし、つまずきとなるものと不法を行う者とを、ことごとく御国からとり集めて、

13:42 炉の火に投げ入れさせるであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。

13:43 そのとき、義人たちは彼らの父の御国で、太陽のように輝きわたるであろう。耳のある者は聞くがよい。

13:44 天国は、畑に隠してある宝のようなものである。人がそれを見つけると隠しておき、喜びのあまり、行って持ち物をみな売りはらい、そしてその畑を買うのである。

13:45 また天国は、良い真珠を捜している商人のようなものである。

13:46 高価な真珠一個を見いだすと、行って持ち物をみな売りはらい、そしてこれを買うのである。

13:47 また天国は、海におろして、あらゆ

られる。網が湖に投げ降ろされ、いろいろな魚を集める。

13:48 網がいっぱいになると、人々は岸に引き上げ、座って、良いものは器に入れ、悪いものは投げ捨てる。

13:49 世の終わりにもそうなる。天使たちが来て、正しい人々の中にいる悪い者どもをより分け、

13:50 燃え盛る炉の中に投げ込むのである。悪い者どもは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。」

13:51 「あなたがたは、これらのことがみな分かったか。」弟子たちは、「分かりました」と言った。

13:52 そこで、イエスは言われた。「だから、天の国のことを学んだ学者は皆、自分の倉から新しいものと古いものを取り出す一家の主人に似ている。」

エゼ 4:1~8 (新共同訳)

4:1 人の子よ、れんがを一つ取って目の前に置き、その上に都であるエルサレムを刻みなさい。

4:2 そして、これを包囲し、これに向かって堡壘を建て、壘を築き、陣営を敷き、破城槌を周囲に配備しなさい。

4:3 自ら鉄の板を取り、それを自分と都との間に鉄の壁とし、あなたの顔を都に向けなさい。こうして都は包囲される。あなたがそれを包囲するのだ。これはイスラエルの家に対するしるしである。

4:4 左脇を下にして横たわり、イスラエルの家の罪を負いなさい。あなたは横たわっている日の数だけ、彼らの罪を負わなければならない。

4:5 わたしは彼らの罪の年数を、日の数にして、三百九十日と定める。こうして、あなたはイスラエルの家の罪を負わねばならない。

4:6 その期間が終わったら、次に右脇を下にして横たわり、ユダの家の罪を四十日間負わねばならない。各一年を一日として、それをあなたに課す。

4:7 あなたは包囲されたエルサレムに顔を向け、腕をまくり上げて、これに向かって預言しなさい。

4:8 わたしがあなたに縄をかけるので、あなたはその包囲の日が終わるまで、一

る種類の魚を囲みいれる網のようなものである。

13:48 それがいっぱいになると岸に引き上げ、そしてすわって、良いのを器に入れ、悪いのを外へ捨てるのである。

13:49 世の終りにも、そのとおりになるであろう。すなわち、御使たちがきて、義人のうちから悪人をえり分け、

13:50 そして炉の火に投げこむであろう。そこでは泣き叫んだり、歯がみをしたりするであろう。

13:51 あなたがたは、これらのことが皆わかったか。彼らは「わかりました」と答えた。

13:52 そこで、イエスは彼らに言われた、「それだから、天国のことを学んだ学者は、新しいものと古いものとを、その倉から取り出す一家の主人のようなものである。」

エゼ 4:1~8 (口語訳)

4:1 人の子よ、一枚のかわらを取って、あなたの前に置き、その上にエルサレムの町を描きなさい。

4:2 そしてこれを取り囲み、これにむかって雲梯を設け、壘を築き、陣を張り、その回りに城くずしを備えてこれを攻めなさい。

4:3 また鉄の板をとり、それをあなたと町の間に置いて鉄の壁となし、あなたの顔をこれに向けなさい。町をこのように囲んで、その包囲を押し進めなさい。これがイスラエルの家のしるしである。

4:4 あなたはまた自分の左脇を下にして寝なさい。わたしはあなたの上にイスラエルの家の罰を置く。あなたはこうにして寝ている日の間、彼らの罰を負わなければならない。

4:5 わたしは彼らの罰の年数に等しいその日数、すなわち三百九十日をあなたのために定める。その間あなたはイスラエルの家の罰を負わなければならない。

4:6 あなたはその期間を終ったなら、また右脇を下にして寝て、ユダの家の罰を負わなければならない。わたしは一日を一年として四十日をあなたのために定める。

4:7 あなたは自分の顔をエルサレムの包囲の方に向け、腕をあらわし、町に向かって預言しなければならない。

4:8 見よ、わたしはあなたに、なわをかけて、あなたの包囲の期間の終るまで、左

方の脇から他の脇へと寝返りを打つことができなくなる。

ホセ 1:2～9 (新共同訳)

1:2 主がホセアに語られたことの初め。主はホセアに言われた。「行け、淫行の女をめとり/淫行による子らを受け入れよ。この国は主から離れ、淫行にふけているからだ。」

1:3 彼は行って、デブライムの娘ゴメルをめとった。彼女は身ごもり、男の子を産んだ。

1:4 主は彼に言われた。「その子をイズレエルと名付けよ。間もなく、わたしはイエフの王家に/イズレエルにおける流血の罰を下し/イスラエルの家におけるその支配を絶つ。

1:5 その日が来ると/イズレエルの平野で/わたしはイスラエルの弓を折る。」

1:6 彼女は再び身ごもり、女の子を産んだ。主は彼に言われた。「その子を/ロ・ルハマ (憐れまれぬ者) と名付けよ。わたしは、もはやイスラエルの家を憐れまず/彼らを決して赦さないからだ。

1:7 だが、ユダの家には憐れみをかけ彼らの神なる主として、わたしは彼らを救う。弓、剣、戦い、馬、騎兵によって/救うのではない。」

1:8 彼女はロ・ルハマを乳離れさせると、また身ごもって、男の子を産んだ。

1:9 主は言われた。「その子を/ロ・アンミ (わが民でない者) と名付けよ。あなたたちはわたしの民ではなく/わたしはあなたたちの神ではないからだ。」

代下 36:15～21 (新共同訳)

36:15 先祖の神、主は御自分の民と御住まいを憐れみ、繰り返し御使いを彼らに遣わされたが、

36:16 彼らは神の御使いを嘲笑い、その言葉を蔑み、預言者を愚弄した。それゆえ、ついにその民に向かって主の怒りが燃え上がり、もはや手の施しようがなくなった。

36:17 主はカルデア人の王を彼らに向かって攻め上らせられた。彼は若者たちを聖所の中で剣にかけて殺し、若者のみならず、おとめも、白髪の老人も容赦なかった。主はすべての者を彼の手に渡された。

右に動くことができないようにする。

ホセ 1:2～9 (口語訳)

1:2 主が最初ホセアによって語られた時、主はホセアに言われた、「行って、淫行の妻と、淫行によって生れた子らを受け入れよ。この国は主にそむいて、はなはだしい淫行をなしているからである」。

1:3 そこで彼は行ってデブライムの娘ゴメルをめとった。彼女はみごもって男の子を産んだ。

1:4 主はまた彼に言われた、「あなたはその子の名をエズレルと名づけよ。しばらくしてわたしはエズレルの血のためにエヒウの家を罰し、イスラエルの家の国を滅ぼすからである。

1:5 その日、わたしはエズレルの谷でイスラエルの弓を折る」と。

1:6 ゴメルはまたみごもって女の子を産んだ。主はホセアに言われた、「あなたはその名をロルハマと名づけよ。わたしはもはやイスラエルの家をあわれまず、決してこれをゆるさないからである。

1:7 しかし、わたしはユダの家をあわれみ、その神、主によってこれを救う。わたしは弓、つるぎ、戦争、馬および騎兵によって救うのではない」と。

1:8 ゴメルはロルハマを乳離れさせたとき、またみごもって男の子を産んだ。

1:9 主は言われた、「その子の名をロアンミと名づけよ。あなたがたは、わたしの民ではなく、わたしは、あなたがたの神ではないからである」。

代下 36:15～21 (口語訳)

36:15 その先祖の神、主はその民と、すみかをあわれむがゆえに、しきりに、その使者を彼らにつかわされたが、

36:16 彼らが神の使者たちをあざけり、その言葉を軽んじ、その預言者たちをののしったので、主の怒りがその民に向かって起り、ついに救うことができないようになった。

36:17 そこで主はカルデアびとの王を彼らに攻めこさせられたので、彼はその聖所の家でつるぎをもって若者たちを殺し、若者をも、処女をも、老人をも、しらがの者をもあわれまなかった。主は彼らをことごとく彼の手に渡された。

36:18 彼は神殿の大小の祭具のすべて、主の神殿の宝物も、王とその高官たちの宝物も残らずバビロンに持ち去った。

36:19 神殿には火が放たれ、エルサレムの城壁は崩され、宮殿はすべて灰燼に帰し、貴重な品々はことごとく破壊された。

36:20 剣を免れて生き残った者は捕らえられ、バビロンに連れ去られた。彼らはペルシアの王国に覇権が移るまで、バビロンの王とその王子たちの僕となった。

36:21 こうして主がエレミヤの口を通して告げられた言葉が実現し、この地はついに安息を取り戻した。その荒廃の全期間を通じて地は安息を得、七十年の年月が満ちた。

黙 3:14~18 (新共同訳)

3:14 ラオディキアにある教会の天使にこう書き送れ。『アーメンである方、誠実で真実な証人、神に創造された万物の源である方が、次のように言われる。

3:15「わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。

3:16 熱くも冷たくもなく、なまぬるいので、わたしはあなたを口から吐き出そうとしている。

3:17 あなたは、『わたしは金持ちだ。満ち足りている。何一つ必要な物はない』と言っているが、自分が惨めな者、哀れな者、貧しい者、目の見えない者、裸の者であることが分かっている。

3:18 そこで、あなたに勧める。裕福になるように、火で精錬された金をわたしから買うがよい。裸の恥をさらさないように、身に着ける白い衣を買い、また、見えるようになるために、目に塗る薬を買うがよい。

36:18 彼は神の宮のもろもろの大小の器物、主の宮の貨財、王とそのつかさたちの貨財など、すべてこれをバビロンに携えて行き、

36:19 神の宮を焼き、エルサレムの城壁をくずし、そのうちの宮殿をことごとく火で焼き、そのうちの尊い器物をことごとくこわした。

36:20 彼はまたつるぎをのがれた者どもを、バビロンに捕えて行って、彼とその子らの家来となし、ペルシアの国の興るまで、そうして置いた。

36:21 これはエレミヤの口によって伝えられた主の言葉の成就するためであった。こうして国はついにその安息をうけた。すなわちこれはその荒れている間、安息して、ついに七十年が満ちた。

黙 3:14~18 (口語訳)

3:14 ラオディキアにある教会の御使に、こう書きおくりなさい。『アアメンたる者、忠実な、まことの証人、神に造られたものの根源であるかたが、次のように言われる。

3:15 わたしはあなたのわざを知っている。あなたは冷たくもなく、熱くもない。むしろ、冷たいか熱いかであってほしい。

3:16 このように、熱くもなく、冷たくもなく、なまぬるいので、あなたを口から吐き出そう。

3:17 あなたは、自分は富んでいる。豊かになった、なんの不自由もないと言っているが、実は、あなた自身がみじめな者、あわれむべき者、貧しい者、目の見えない者、裸な者であることに気がついていない。

3:18 そこで、あなたに勧める。富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、また、あなたの裸の恥をさらさないため身に着けるように、白い衣を買ひなさい。また、見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい。

金曜日 10月30日 エレン・ホワイトによる啓示と靈感について

セブンスデー・アドベンチストは、エレン・ホワイトが神の靈感を受けたと信じています。彼女の著作物、生涯、働きは、真の預言者の基準を満たしています。彼女は、聖書の預言者たちと同じ靈感の質を備えていましたが、自分の著作物が聖書

と同等だとは決して考えませんでした。それどころか、エレン・ホワイは常に聖書を高く掲げました。では彼女自身は、神から受けた預言的な啓示とその靈感の過程をどのように理解していたのでしょうか。

第一に、エレン・ホワイは常に聖書を、権威ある、誤りのない神の啓示と考えていました。聖書は、神の真理と、堕落した人類のための神の救済計画を明らかにしています。私たちが学んでいるように、その過程において、神は預言者を用いてご自分のメッセージをお伝えになります。

第二に、エレン・ホワイは、靈感の過程には神と人間の相互作用が伴うことを認識していました。神はご自分のメッセージをお伝えになりましたが、次に預言者は神のその教えを自らの言葉で伝えます。エレン・ホワイがこう述べているとおりです——「靈感を受けたのは聖書の言葉ではなく、人でした。靈感は言葉や表現に働いたのではなく、その人自身に働いたのです。彼らは聖霊の影響を受けて、思想を与えられました。……神のみ心と意志が人間の心と意志に結びついて、人間の言葉が神の言葉となったのです」(『セレクトッド・メッセージ I』 11 ページ)。

幻と預言的な夢との関連において、エレン・ホワイは「思想靈感」を、神の啓示と人間の経験の結合と理解していました。彼女はこう記しています——「神から与えられた真理が人間の言葉に表現されている聖書には、神的なものと人間的なものとの結合が見られる」(『セレクトッド・メッセージ I』 16, 17 ページ)。神は、使者の心にご自分のメッセージを理解させるため、さまざまな方法を用いられました。それらには、預言者のあらゆる感覚を働かせる画像表現、言葉、思想が含まれており、エレン・ホワイの経験は、聖書記者の経験と似ていました。

第三に、エレン・ホワイは、彼女の人間としての経験やコミュニケーションのすべてが靈感によるものではないと指摘しています——「一般のことを言い、一般のことを考え、一般の手紙を書き、情報を働き人の一人ひとりに伝えなければならないこともあります。このような言葉や情報は、神のみ霊の靈感によるものではありません」(『セレクトッド・メッセージ I』 37 ページ)。彼女の著作物や経験、特に書簡や日記を読んで受け止める際には、この区別を認識しておくことが重要です。

啓示と靈感に関するエレン・ホワイの理解を知ることが、極端な解釈を避け、彼女の勧告を理解しながら慎重に読むうえで助けとなります。